

3 環境情報の収集・発信

センターでは、県民の環境意識の向上や環境保全活動を支援するため、環境学習情報のほか、試験研究情報、国際貢献情報など様々な情報をホームページで提供している。また、平成26年7月からフェイスブック、令和2年5月からYouTube公式チャンネル「CESSチャンネル」、令和2年11月からインスタグラムを活用して、イベントや生態園の四季、センターの活動などの情報を発信している。

これに加え、新聞による環境情報の発信や、センターの活動を広く知ってもらうためにニュースレターを発行している。

HPアドレス <http://www.pref.saitama.lg.jp/cess/index.html> [令和4年度アクセス件数 214,868件]

フェイスブックページアドレス <https://www.facebook.com/saitama.kankyokagaku>

YouTube公式チャンネルアドレス <https://www.youtube.com/channel/UCloUEno4mbrzZlOT2SszEV7A>

インスタグラムページアドレス <https://www.instagram.com/cess.saitamaken/>

3.1 ホームページのコンテンツ

(1) グローバルナビゲーション

トップページ上段に、以下の4つの大分類を設け、サイト構成をわかりやすく整理。

- ア センターについて** 総長あいさつ、組織図、沿革、全景(航空写真)、パンフレットなどを掲載。
- イ 施設紹介** 施設紹介、ご利用案内、展示館、生態園、環境情報プラザ、研修室などを掲載。
- ウ 試験研究の取組** 研究所中期取組方針、研究課題、研究評価の取組、国際貢献、研究員紹介などを掲載。
- エ 環境学習・情報** イベントのお知らせ、彩の国環境大学、身近な環境観察局、出前講座などを掲載。

(2) お知らせ

特に注目してほしい情報を掲載。

(3) 新着情報

最新の更新情報を掲載。

(4) 環境学習・イベント情報

最新のイベント情報、校外学習、出前講座の案内など環境学習に関する情報を掲載。

(5) 研究所トピックス

ニュースレター、センター講演会など研究所に関する情報を掲載。

(6) お役立ちPickUp

イベント情報、「ココが知りたい！埼玉の環境」などアクセスの多い情報を掲載。

(7) リンク

公式SNS情報、埼玉県気候変動適応センター、刊行物、地図で見る埼玉の環境 Atlas Eco Saitamaなど。

3.2 ニュースレターの発行

センターが行っている試験研究の内容や様々な講座、イベントなどの情報を県民の方々に広く情報提供するためのニュースレター(A4版・6～8ページ)を令和4年度は4回発行した。なお、ニュースレターは、センターのホームページからも閲覧及びダウンロードができる。

(1) 第55号(令和4年4月発行)

- ・ 研究・事業紹介 「埼玉県環境科学国際センター研究所中期取組方針を策定しました」
「埼玉県環境科学国際センター講演会を開催しました」
- ・ ココが知りたい埼玉の環境(46) 「土壌地下水汚染の原因者は誰？えっ！微生物が汚染原因者って本当？」
- ・ 環境学習・イベント情報

(2) 第56号(令和4年7月発行)

- ・ 研究・事業紹介 「「クビアカツヤカミキリ発見大調査」で判明した県内の被害状況～県民と協働した取り組み～」
- ・ グループ紹介 「総務・学習・情報担当」
- ・ ココが知りたい埼玉の環境(47) 「捕まえなくていい水生生物調査法があるって本当ですか？」
- ・ 環境学習・イベント情報

(3) 第57号(令和4年10月発行)

- ・ 研究・事業紹介 「大気成分が気候や気象を左右する？～雲や雨をつくる微粒子の研究～」

- ・ グループ紹介 「生物多様性保全担当(生物多様性センター)」
- ・ ココが知りたい埼玉の環境(48) 「災害廃棄物の仮置場とは何ですか？」
- ・ 環境学習・イベント情報

(4) 第58号(令和5年1月発行)

- ・ 研究・事業紹介 「埼玉県カーボンニュートラル戦略の策定に向けて」
- ・ ココが知りたい埼玉の環境(49) 「今でも大気中から放射性物質は検出されるのでしょうか？」
- ・ センター講演会のお知らせ
- ・ 環境学習・イベント情報

3.3 センター講演会

当センターでは、広く県民に活動内容及び研究成果を紹介することにより、県民のセンターに対する理解と環境問題への関心を深めることを目的として「令和4年度環境科学国際センター講演会」を令和5年2月6日に、当センター研修室とオンラインによるハイブリット方式で開催した。また、武蔵野銀行エムズスクエアで、パブリックビューイングを同時開催した。

冒頭、東京大学 未来ビジョン研究センター 教授 高村ゆかり 氏による特別講演、続いてセンター研究員による研究成果・事例紹介、そして講演会終了後、当センターに来場した方のうち希望される方を対象に、研究所見学を行った。また、の8つの担当グループをYouTubeで紹介した。センター講演会の参加者は全体で219人であった。

(1) 特別講演

脱炭素に向けた社会の取組……………**東京大学 未来ビジョン研究センター 教授 高村ゆかり**

産業革命前と比して世界の平均気温の上昇を1.5℃に抑えようという目標は、今の私たちの対策では、到底達成できない。目標達成には、二つの異なる時間軸の取り組みを今同時にしなければならぬ。一つは、今、私たちの手元にある様々な排出を減らす技術ややり方を最大限使って減らすことである。もう一つは、将来の大きな削減に向けて、新しい技術や生活スタイルの変革を促すような大きな仕組みの変化というものを作る準備をしていくということである。

最近、企業が投資先やサプライチェーン全体の温室効果ガスを減らす取組が増えてきた。企業が温室効果ガスを排出しないで事業を行うためには、温室効果ガスの排出を減らしていく地域を作っていく必要がある。今の社会のあり方、地域のあり方をいい方向に変えていく必要がある。

(2) センターの研究成果・事例紹介

CESSの地域貢献 ～五刀流で地域との窓を開く～……………**研究所長 大原利真**

2021年度末に、CESSの研究所中期取組方針を作成した。キーコンセプトは「地域協働による環境課題解決への貢献」である。地域協働を進めるために「地域との窓」として気候変動適応センター等、2つのセンターと3つのコア(併せて5つ、五刀流)を設け、取組を開始している。

埼玉県内のCO₂排出実態と将来シナリオ……………**温暖化対策担当 主任 本城慶多**

埼玉県は地球温暖化対策実行計画(第2期)を策定し、県内温室効果ガスの排出削減を進めてきた。本講演では、人口・経済・気候シナリオに基づく県内温室効果ガス排出量の予測結果を示すとともに、本県が今後取り組むべき温暖化対策の方向性について議論した。

生物多様性の場としての田んぼの役割……………**自然環境担当 主任 安野翔**

水田生態系の効果的な保全には、動植物の生息・生育状況の把握が重要である。加須市内の2地域の水田において、田植え時期や単作、二毛作といった農法と水生動物群集の関係を調べた結果、農法及び地域間で統計的に有意な差が認められ、37種の絶滅危惧種の水生植物も確認した。

事故時の化学物質迅速分析……………**化学物質・環境放射能担当 担当部長 大塚宜寿**

事故等によって化学物質が環境中に漏れ出た際に対策を講じるためには、化学物質を迅速に特定し、環境中の濃度レベルを把握することが必要である。本講演では、化学物質・環境放射能担当が進めている事故時等における化学物質の迅速分析に関する取り組みについて紹介した。

(3) 研究所見学

通常一般公開されていない研究所内において、施設見学等を行った。

(4) YouTubeでの担当グループ紹介

8つの担当グループを以下のURLで紹介した。

温暖化対策担当: https://youtu.be/U0jEOio_uQk

大気環境担当: <https://youtu.be/NQ91cFAGzG8>

自然環境担当: https://youtu.be/n2Ljn1_Sm3s

資源循環・廃棄物担当: <https://youtu.be/LF-Wij6G5Yc>

化学物質・環境放射能担当: <https://youtu.be/ELMS0fqOQik>

水環境担当: https://youtu.be/wMW9t5H6_oU

土壌・地下水・地盤担当: <https://youtu.be/QOsJANmszJQ>

総務・学習・情報担当: <https://youtu.be/EfQ-Hds8bZ4>



特別講演



研究所見学

3. 4 環境情報の提供

(1) 気候変動適応センター

埼玉県では、平成30年12月の気候変動適応法施行にあわせ、埼玉県環境科学国際センターを地域気候変動適応センター(埼玉県気候変動適応センター)に位置付けた。埼玉県気候変動適応センターでは、県内の気象情報や影響情報、適応策に関連する情報を収集・整理するとともに、埼玉県気候変動適応センターのホームページ(SAI-PLAT)でそれらの情報を提供している。さらに、気候変動適応サイエンスカフェなど様々な手段を通じた情報発信を行っている。

気候変動適応サイエンスカフェ

| 期 日 | テーマ | 講 師 名 | 開催場所 | 参加者 |
|------------|----------------------------------|--|------------|-----|
| 2022. 8. 9 | 「気候変動と埼玉県の暑熱環境」 | <講師> 立正大学地球環境科学部 講師 鈴木パーカー明日香 <ファシリテーター> 埼玉県環境科学国際センター 主任 大和広明 | オンライン | 34名 |
| 2022.12. 4 | 「家庭でもできる地球温暖化対策」 | <講師> 埼玉県環境部温暖化対策課 主査 的場啓祐 埼玉県環境科学国際センター 囑託 宮川武明 <ファシリテーター> 埼玉県環境科学国際センター 主任研究員 濱元栄起 | 環境科学国際センター | 24名 |
| 2023. 2.15 | 「タイフーンショット計画 ～2050年、台風を脅威から恵みに～」 | <講師> 横浜国立大学 教育学部 教授 先端科学高等研究院 台風科学技術 研究センター長 筆保弘徳 | オンライン | 47名 |

(3講座、計105名)

(2) 生物多様性センター

埼玉県では、「埼玉県生物多様性保全戦略」を推進し、生物多様性の保全を進める関係者の連携・情報共有の拠点として、令和4年4月1日に、「埼玉県生物多様性センター」を環境科学国際センターに設置した。ここでは、地域保全活動の支援をはじめ、生物多様性保全に関する情報収集・管理・発信、調査研究、教育・普及啓発などを行っている。埼玉県生物多様性センターのホームページでそれらの情報を提供しているほか、サイエンスカフェなどによる普及啓発活動も行っている。

イベント

| 期 日 | イベント名及びテーマ | 演題及び講師 | 開催場所 | 参加者 |
|------------|--|---|--------------|-------|
| 2022. 6.25 | 県の蝶ミドリシジミを見る集い 2022* | 秋ヶ瀬公園(ピクニックの森周辺)におけるミドリシジミの観察 〈講師〉 埼玉昆虫談話会会員 | さいたま市 | 45 名 |
| 2022. 9. 6 | 埼玉県生物多様性センター創立記念セミナー** 「第 20 回環境問題の現状と将来を展望するセミナー 生物多様性と現代社会」 | 〈基調講演〉 「生物多様性異変と新型コロナ～感染症の時代を我々はどう生き抜くか～」 国立環境研究所 生態リスク評価・対策研究室 室長 五箇公一 〈プレゼンテーション〉 「生物多様性センターの概要説明」 埼玉県環境科学国際センター副室長 三輪誠 「埼玉県の生物多様性保全の課題と生物多様性センターへの期待」 公益財団法人埼玉県生態系保護協会 専務理事 堂本泰章 「生物多様性情報学の現在と、埼玉県生物多様性センターへの期待」東京都立大学都市環境学部准教授 大澤剛士 | さいたま市及びオンライン | 163 名 |
| 2022.11.18 | いきものサイエンスカフェ*** 「オオカミと生物多様性」 | 〈講師〉 埼玉県環境科学国際センター・埼玉県生物多様性センター 専門研究員 角田裕志 〈ファシリテーター〉 ラジオ DJ 武村喜世子 | オンライン | 72 名 |
| 2023. 2.18 | 第9回生きものフォーラム*** 「埼玉県の希少野生植物について考える」 | 〈講演〉 「埼玉県レッドデータブック(植物編)の背景とその課題について」 立正大学地球環境科学部 教授 米林伸 「埼玉県レッドデータブック(植物編)の改訂に関する調査について」 NPO法人埼玉県絶滅危惧植物種調査団 代表理事 牧野彰吾 「埼玉県の希少な植物群落について」 埼玉県立自然の博物館 学芸員 須田大樹 「埼玉県の希少水生植物ムジナモについて」 埼玉大学教育学部 教授 金子康子 | さいたま市及びオンライン | 68 名 |

*: 埼玉昆虫談話会と共同開催 **:(一社)埼玉県環境検査研究協会と共同開催 ***:(特非)いろいろ生きものネット埼玉と共同開催
(4イベント、計 348 名)



埼玉県生物多様性センターホームページ(<https://saitama-biodiversity-center-cessgis.hub.arcgis.com/>)

(3) モニタリングデータの提供 (CO₂)

環境科学国際センターは、さいたま市(1991～2000年度)、東秩父村(1992年度～)及び加須市(2000年度～)において、温室効果ガスである大気中のCO₂の濃度を観測してきた。観測に当たっては、世界気象機関標準ガスを基準としており、観測データについては、世界気象機関(WMO)の温室効果ガス世界資料センター(WDCGG)へ提供することにより、世界各地に供給した。平成21年10月からは、当センターの観測結果(速報値)をセンターホームページに掲載(自動更新)し、公開している。

(4) 環境情報の海外への発信

ホームページに英語版、中国語版のパンフレットを掲載するとともに、英語版ホームページにより研究成果や研究員紹介などを掲載し、海外に向けた情報発信を行った。

(5) 共同研究サポート等

民間事業者や地域との連携を強化するため、次のとおり試験研究成果に関する情報を積極的に発信するとともに、民間事業者のニーズ等に関する情報を収集した。

- ・新都心イブニングサロン:令和4年7月8日、令和4年10月28日に配信された新都心イブニングサロンのコンテンツを視聴、令和5年2月10日には会場開催に参加し、県内民間企業のニーズ情報等を収集した。
- ・研究シーズ集第3版(改訂版):新たな研究シーズを1件追加するとともに、研究の進捗状況等に応じて一部のシーズを修正した研究シーズ集第3版の改訂版を令和5年3月1日に発行した。
- ・エコプロ2022:令和4年12月7日～9日に東京ビッグサイトで開催されたエコプロ2022に埼玉大学大学院環境総合評価研究室と共同で出展し、環境科学国際センターの概要や研究シーズを紹介した。出展内容は次のとおり。

熱中症対策に活用できる暑さ指数の値のリアルタイム公表と暑さ指数計測装置の開発……………
……………温暖化対策担当 主任 大和広明

微量有害化学物質のサンプリングデバイス開発……………化学物質・環境放射能担当 専門研究員 竹峰秀祐

- ・民間企業等との共同研究:大気粒子の磁性の測定と地中熱の測定に関する民間企業との共同研究を2件実施するとともに、新たに民間企業と上空の大気計測および化学物質の分析に関する共同研究契約を2件結んだ。
- ・CESS社会実装化セミナー:令和4年8月22日にCESS社会実装化セミナーをオンライン開催し、(公財)埼玉県産業振興公社知的財産アドバイザーの原田正純氏と当センター土壌・地下水・地盤担当の濱元栄起研究員が、それぞれ「社会実装を意識した研究活動～知的財産の観点も含めて～」と「熱伝導率測定装置の開発と特許取得」という演題で講演した。
- ・埼玉県環境ビジネスセミナー:令和4年11月6日に埼玉県環境ビジネス実行委員会が主催する埼玉県環境ビジネスセミナーに参加し、ポスターセッション(展示)でセンターの概要、研究シーズ集等を紹介した。特に、暑さ指数計は実物を展示し、温暖化対策担当の大和広明研究員が説明を行った。
- ・ぶぎんレポート(ぶぎん地域経済研究所発行):ぶぎんレポート連載の「環境研究の最前線ー埼玉県環境科学国際センター研究員に聞く」に、研究員が執筆した3つの記事が掲載された(令和5年1月、2月、3月各号)。

埼玉県における気候変動対策の現状と課題……………温暖化対策担当 主任 本城慶多

シロキサン分析法開発と国際標準化への挑戦……………化学物質・環境放射能担当 専門研究員 堀井勇一

埼玉県における地中熱エネルギーの活用……………土壌・地下水・地盤担当 主任研究員 濱元栄起

- ・埼玉県エコサポートガイドブック:事業者向けの県の環境支援策をまとめた「埼玉県エコサポートガイドブック」に、環境保全に関する共同研究等の支援事業として研究シーズ集第3版を紹介した。



研究シーズ集第3版



エコプロ2022への出展

3.5 マスコミ報道

センターの試験研究、環境学習等に関して記者発表を行ったほか、取材を受ける等の結果、以下のとおりマスコミによる報道があった。

(1) 新聞報道、広報誌掲載

(10回)

| 掲載日 | 掲載紙(誌) | タイトル | 内容 |
|------------|--------|--------------------------------------|---|
| 2022. 4. 6 | 埼玉新聞 | 「環境」描いた15点 16日まで加須で作品展 | 世界の子どもたちが環境問題をテーマに描いた「花王国際こども環境絵画コンテスト」の入賞作品展が、加須市上種足の県環境科学国際センター2階展示室で16日まで開かれている。会場では子どもたちの作品15点を展示。同センターの伊東奈緒美さんは「環境に関する絵を見て、何か意識付けになればと思っている」と話していた。 |
| 2022. 7.29 | 毎日新聞 | カミキリから桜守れ！ さきたま古墳公園 行田さくらRCが駆除 | 社会奉仕団体「行田さくらロータリークラブ」の有志約40人が26日、行田市の「さきたま古墳公園」で特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」の駆除活動を行った。オブザーバーとして参加した県環境科学国際センターの研究者、三輪誠さんは「行田市の取り組みは先進的で、周辺の自治体にもいい影響を与えています。このままでは、桜だけではなく果樹も大打撃を受ける。まずはクビアカツヤカミキリの被害の実相を知ることから関心を深めていただきたい」と話した。 |

| 掲載日 | 掲載紙(誌) | タイトル | 内容 |
|-------------|--------|--|--|
| 2022.8.10 | 埼玉建設新聞 | コンクリート非破壊調査協会 本年度定期総会開く 「新しい地域の創り手」 目指す | コンクリート非破壊調査協会(中田康祐代表理事)は、2022年度の定期総会をさいたま市内のJACK大宮で執り行った。新規事業を進めるためのヒントとして、県内の民間企業と協働する県環境科学国際センターが最新の研究成果や蓄積・保有している技術などを取りまとめた「研究シーズ集(第3版)」も情報提供された。 |
| 2022. 8. 13 | 東京新聞 | 危険な暑さ 指数で計測 県環境科学国際センターが装置 | 危険な暑さが続く中、県環境科学国際センター(加須市)は、熱中症の危険度を判断する値「暑さ指数」を遠隔地からインターネットで確認できる安価な計測装置を開発し、12日から県内20地点の指数の公表を始めた。センターによると、暑さ指数の継続的な公表は県内の自治体で初めて。同センターは今後、新装置の市販化を検討する。開発した大和広明研究員は「新装置に関心を持つ企業があれば、市販化に取り組みたい。まだまだ猛暑が続くそうなので、公表を始めた指数を見て熱中症を予防してほしい」と呼びかけている。 |
| 2022. 8. 15 | 埼玉新聞 | 暑さ指数計 独自開発 県環境科学国際センター | 県民の熱中症予防に役立てようと、県環境科学国際センター(加須市)は、熱中症注意喚起の基準となる「暑さ指数」を自動計算、送信するIoT(モノのインターネット)暑さ指数計を独自開発し、県内20地点に設置した。各地の暑さ指数を集約し、県気候変動適応センターのウェブサイトにリアルタイムで公開。自治体で独自に暑さ指数を公開するのは全国でも初めてという。環境科学国際センターは「屋外に出かける際に見ると熱中症リスクが分かる。(暑さ指数)が28度以上の時は運動を控えるなどの対策してほしい」と呼びかけている。 |
| 2022. 8. 17 | 産経新聞 | 「暑さ指数」リアルタイムで 県独自算出 県内20カ所に観測地点 | 県は、環境省が公開している熱中症予防の指標「暑さ指数」を独自に算出、公表するシステムの本格運用を始めた。計測に使う指数計は、県の機関「環境科学国際センター」(加須市)が開発した。観測地点は県内20カ所に設け、環境省分(8カ所)よりもきめ細やかなデータの把握が可能。また、環境省の数値が1時間ごとの更新なのに対し、県はほぼリアルタイムで公表する。県によると、暑さ指数を自治体で長期間にわたり独自に発表する取り組みは全国初という。環境科学国際センターの担当者は「県内は夏の暑さが厳しい。屋外で活動する若者らの熱中症のリスクを抑えたい」と話す。担当者は「28度以上だと全ての生活活動で熱中症の危険性が高まる。冷房の利用や外出を控えることなどが必要になる」と注意を呼び掛けている。 |

| 掲載日 | 掲載紙(誌) | タイトル | 内容 |
|------------|--------|--|--|
| 2022. 8.31 | 朝日新聞 | あついぞ！埼玉3 シラコバト 空に残すため | まん丸な目に、とぼけた表情。そして末広がりのメタボ体形。埼玉県が誇るゆるキャラ「コバトン」だ。県のマスコットになって20年近くになる。コバトンのモチーフになったのは、県民の鳥「シラコバト」。環境省のレッドリストでシラコバトは「近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの」に分類されているのだ。県は県内5つの動物園でシラコバトの飼育・繁殖を続けている。いずれ野生に放つことも視野に入れるが、方針は未定だ。営巣地や生態に不明な点が多く、「まずは調査を」との意見もあり、県は市民からの目撃情報の収集にも力を入れる。見かけた際には、県のサイトにある用紙に場所や数を記入してメールやファックスで送ってほしいと呼びかけている。 |
| 2022. 9. 8 | 朝日新聞 | 「暑さ指数」算出 生徒が装置自作 大宮工高生が7台 気温・湿度などデータ 収集 熱中症対策にいかす 方法模索 | 猛暑日が続いた今年の夏。県立大宮工業高校(さいたま市北区)では、生徒たちが3Dプリンターなどを駆使して自作した装置で気温や湿度などのデータを集めている。作ったのは高さ1.5メートルほどの棒の先端に長さ20センチほどの箱がついた「環境測定装置」。もとは県環境科学国際センターが2020年度から開発を進めてきたものだ。生徒たちは計7台の装置を作り、他の県立工業高校にも設置。8月16日には、気候学を専門とする県環境科学国際センター職員の大和広明さんから、集めたデータの見方を教わった。生徒たちは大和さんと意見を交わしながら、「各地点で得たデータと熱中症患者の数などを10月以降に比べたい」と話していた。それらに実際に相関関係があるか確認し、データの発信方法についても考えていく予定だ。 |
| 2022. 9. 9 | 読売新聞 | いま学校は 「暑さ指数」データ解析 の授業(県立大宮工業 高校) 熱中症予防へ 測定器自作 | 県立大宮工業高校(さいたま市)は今年度、文部科学省の「マイスター・ハイスクール」に指定されている。生徒たちは県環境科学国際センターの大和広明研究員の指導のもの、地球温暖化の解決策をテーマに研究に取り組んでいる。気温や湿度などを測定する装置は、大和研究員から送られた測定器を参考に、3Dプリンターで部品を作るなどしてオリジナルのものを作製。7月上旬、県内の15の工業高校すべてに機器を設置して測定を始めた。環境データの測定は9月末まで行われ、解析したデータはSNSを通じて発信される予定だ。 |

| 掲載日 | 掲載紙(誌) | タイトル | 内容 |
|------------|--------|---|--|
| 2022.11.20 | 東京新聞 | 見沼田んぼ 桜回廊途切れ「寂しい」 さいたま市枯木伐採 外来害虫発見されず 老木原因か | さいたま市緑区の「見沼田んぼ」西縁の桜並木で八月、一本の桜の木が枯れて伐採された。周辺ではすでに二本が撤去されていて、「桜回廊」で知られる名所にぽっかりと空白が生まれてしまった。県内では中国などが原産のクビアカツヤカミキリの被害が拡大しているため市が六月、桜回廊の見守り活動を行うサポーターの会合を開催。県環境科学国際センターの職員が、木を侵食すると排出されるフンと木くずが混ざった「フラス」の発見などの防除ポイントを伝授した。同センターは「さいたま市ではまだ確認されていないが、桜並木のような場所は被害が広がりやすいので今後も警戒が必要」と語る。県環境科学国際センターでは、表面のゴツゴツした老木の方がクビアカツヤカミキリにとって卵が産みやすく、狙われやすいとも指摘しており、今後も“古い”と害虫へのダブル対策は不可欠となる。 |

(2) テレビ放映、ラジオ放送

(4回)

| 放送日 | 局名 | 番組名(タイトル) | 内容 |
|------------|--------|------------------------|---------------------------------------|
| 2022. 7.13 | NHK総合 | 首都圏ネットワーク ニュースウォッチ9 | 7/12に発生した埼玉県内の豪雨の発生要因について(大和研究員) |
| 2022. 8.16 | テレビ埼玉 | NEWS545 | 暑さ指数計 大宮工業高校「マスターハイスクール事業」での授業(大和研究員) |
| 2023. 2.19 | NHK総合 | ダーウィンが来た! | 謎多きニホンオオカミ高精細CGで完全再現(角田研究員) |
| 2023. 3. 7 | BS 日テレ | 深層NEWS | ウクライナ戦争の物言わぬ被害者 住処を追われた動物たち(角田研究員) |

(3) ミニコミ誌等

(2回)

| 掲載日 | 掲載誌 | タイトル | 内容 |
|-------------|----------|-----------------------|----------------------------------|
| 2022. 4. 25 | とねじん5月号 | ゴールデンウィーク特別企画 F 研究所公開 | 研究所内部の公開や、研究員による日頃の研究内容の実演などを紹介。 |
| 2022. 4. 25 | クッキーズ5月号 | ゴールデンウィーク特別企画 F 研究所公開 | 研究所内部の公開や、研究員による日頃の研究内容の実演などを紹介。 |